

国際ロータリー第2560地区  
スローガン

ロータリーはステージ・  
みんなが輝く！

高田ロータリークラブ  
会長方針

ロータリーに共に参加し、  
共に学び、共に楽しもう



2024-2025年度

国際ロータリー会長 ステファニーA.アーチック  
第2560地区ガバナー 南雲博文  
高田ロータリークラブ会長 飯塚宏佳  
幹事 細野仁

広報・会報・雑誌委員会：  
佐藤勝則 箕輪賢一 倉田 亮

## 第 14 回例会 11月 15日(金)

No.14

### 会長挨拶 ●飯塚宏佳



こんにちは。ここ最近のトピックで欠かせないのが日本とアメリカの国政選挙だったと思います。

日本では自民党の石破茂総裁が、少数与党の総理大臣に首班指名されました。一方アメリカではドナルド・トランプが再度大統領に返り咲きました。今回アメリカの大統領選はいろいろと面白かったので、さまざまな記事を目にしました。その中で言い得てるなど記憶に残ったものを、雑感を交えながら取り留めのないお話ししようかと思います。

今回のハリス氏の敗因は多々あったようです。アドリブが利かないとか性格が攻撃的すぎるとかいろいろ言われていましたが、一番は暮らしの安全と経済問題とされています。日本のTVなどではアメリカ他海外の諸国は皆景気が良く日本だけが悪いと言っていました。実情としてあまりのインフレ率の高さに生活が窮乏しているというのが現状のようです。アメリカ大統領選の統轄をするうえでやっと日本のメディアもそういった論調になってきましたが、今更な感じでしょうか。また移民による問題も今の日本人には分からないほど深刻なのでしょう。

自分の生活が脅かされている事への反発が今回の選挙の結果に表れたと言えるんじゃないでしょうか。

因みにアメリカの主要メディアの8割は民主党支持だと言われています。トランプ氏の最初の選挙の時は不思議な期待感とヒラリー氏への拒否感、そしてTwitterなどのSNSを駆使して勝利しました。2回目の選挙の時はそのTwitterから排除されメディアに敗北したと言えるでしょう。そして3度目の今回は主要メディア対イーロンマスクの(X)という構図ができ、イーロンマスクの資金力とXの発信力が勝利しました。アメリカ主要メディアの情報統制が思った以上に及ばなかった結果と推測されます。

日本のメディアはアメリカのホワイトカラー向けの主要メディアを見ているので、ホワイトカラー向けメディアの主張通りに最後まで大接戦と報じていましたが、結局実情とかけ離れてしまいました。

さて翻って日本ですが、アメリカと違い直接選挙では無いので一概に比較はできませんが、それでもまだまだメディアの力が強いと思いました。今回は自民党のキックバックの不記載いわゆる裏金問題が争点になりましたがそこで改めて思うのが日本人とアメリカ人の気質というか国民性の違いです。アメリカでは自分の生活の為言い換えれば「私的」な動機が選挙を左右し、日本では自分の生活よりも公正さ「公的」な動機により投票が行われたように思います。またアメリカの大統領選でも人種や性別での投票もあったと思います。ハリウッドのように極端にポリコレに走る知識階層もありはしますが、一般的にはこの結果の一因になったかもしれません。

さて本日の卓話は、上越教育大学 理事兼事務局長 松崎和之様より「男女共同参画社会について」でご講話いただきます。ご清聴よろしくお願ひします。



## 出席報告

出席率 100%

## メイクアップ

高坂光一君：10/28 ソルトレークシティ RC、10/31 セント・ジョージ・サンライズ RC、11/1 ラスベガス・ウォン RC、11/6 東京 RC、11/11 新潟北 RC 卓話、11/15 中条胎内 RC 卓話  
霜村 浩君：室賀年度会長幹事ラーニング

## ニコニコ BOX 紹介

遠藤 巖君：皆様のお陰で弊社は創立 80 周年を迎

えることが出来ました。感謝、感謝です。ありがとうございました。

## 委員会報告

社会奉仕委員会：能登半島豪雨災害支援のお願い  
ロータリー財団委員会：日本経済新聞へのポリオ根絶記事について

## 幹事報告

配布物：会報No.13  
回覧物：日本経済新聞へのポリオ根絶記事  
報告：来週 11/22 は休会日

## 卓話： 男女共同参画社会について

国立大学法人上越教育大学 理事兼事務局長 松崎和之様



私はこれまで文部省、文部科学省、国立大学等での勤務を経て、令和 5 年 4 月から現職に就いています。これまでの経歴の中で内閣府男女共同参画局に約 2 年間出向した経験があります。本日はそのときの経験から学んだことや現在も仕事に活かしていることをお話しします。

私が出向していた当時（平成 23 年 1 月～25 年 3 月）、政府は「2020 年 30%」という目標を掲げていました。これは、社会のあらゆる分野において、2020 年までに指導的地位に女性が占める割合を少なくとも 30%程度とする目標のことで、「指導的地位」とは、(1)議会議員、(2)法人・団体等における課長相当職以上の者、(3)専門的・技術的な職業のうち特に専門性が高い職業に従事する者のことです。しかしながら、実際には 2020 年時点で指導的地位に占める女性の割合は低い状況で、現在は新たな数値目標が定められています。

現在、私が勤務している上越教育大学においても、事務系職員の管理職に占める女性の割合は 18%程度で、これは私が勤務してきた国立大学等と比較しても大きく変わりません。

一方、上越教育大学の事務系職員全体に占める女性の割合は約 34%、最近の新規採用者に占める女性の割合は概ね 50%程度ですので、将来的に女性管理職が増えることを期待していますが、管理職になるためには資質・能力に加えて「経験」も必要です。

したがって、直ぐに解決できる問題ではありませんが、常に男女共同参画を意識しながら業務に取り組んでいるところです。

